

直方ミニバスケットボールクラブだより

意味があるかどうかは自分の意識が決める



「活動自粛期間」という時間もうまく生かして

自粛生活は、すでに3回目ということで、子どもたちも経験はしていますが、多様な活動によって心身の成長発達が活発に促される時期に活動自粛となることは、ストレスも含めて好ましいことではありません。感染対策をとりながら、可能な限り工夫して、子どもたちの心身の活動を止めずにすむ、毎日の生活リズムを刻ませてあげてください。学校の夏休みの宿題をすることもその一つです。確実に終わらせるように言っています。活動再開初日に、心置きなく、元気に活動する子どもたちの姿を楽しみにしておきます。

オリンピックは今日、閉会式を迎えました。今大会バスケットは男女共参加し、ともに素晴らしいプレー、ゲームを見せてくれました。とりわけ女子は決勝に進み、アメリカに負けはしましたが、準優勝で銀メダルを獲得しました。これは史上初のことで、日本のバスケットの歴史を塗り替えた歴史的快挙と言えます。

これまでの試合も含めて、ビデオやYou Tube等で視聴が可能であれば、全時間でなくても、部分的にでも見ることもできますといいです。プレーやゲームメイクのイメージを具体的に持つことができ、次からの自分のプレーが変わります。

「学び」と「つながり」は子どもが成長するための原動力

夏休みに入り、これまでの活動を基盤にギアを一段階あげて、レベルアップを図ってきました。その分、要求レベルもあげて、特に6年生には、きびしく求めてきました。まだ力不足の面は多々あります。下級生をリードし、活動全体をスムーズに進めていくために、「気づき」「自主性」「自己判断」「自己選択」「表現」「行動」等の力を強く求めてきました。この求めに応じて自分を高めていくことができるかどうか、それが、休み明け（活動再開）から試されることとなります。

子どもたちには、いつも次のように話しています。

このような力は、バスケットだけで身につくものではない。学校の活動においても、地域での活動においても、さまざまな場面で努力し鍛えなければ身につけることはできない。体育館に来たときだけなんとかしようと思っても無理。

そういう意味では、学校や地域でのあらゆる活動も、バスケットのレベルアップにつながっている。だから、どの活動もバスケットの力をつけるために、と頑張って。逆に言えば、バスケットで身につけた力は、学校や地域でも活かすことのできる力になる。

休み（自粛期間）のときに、家庭や地域で過ごすことも、必ずつながるものがあります。意味のないものはありません。意識の持ち方で、意味あるものになったり、意味のないものになったり...ということです。

連日オリンピック報道がなされ、さまざまな種目で試合や競技の勝ち負けの場面が流されています。勝ち試合には、それまでの努力が報われたという大きな達成感があります。しかし、負け試合でも意識の持ち方によっては、「勝ち試合」と同じくらいの価値をもつことがあります。勝ち試合以上の大きな意味をもつものになることもあります。「負け」「失敗」「ミス」「過ち」...これらはとてもネガティブなことばですが、意識の持ち方、あとの行動のとり方によっては、これをポジティブなものに変えることができます。

このようなことを日常活動にある具体の場面とつなぎながら、子どもたちに話しています。これも「学び」です。「学び」と人との「つながり」を大切にすることが、子どもの成長の大きな原動力になります。

